

# 平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名

千葉県教育委員会

## I 概要

### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
千葉県教育委員会	高等学校	全日制的課程	千葉県立関宿高等学校 ちばけんりつせきやどこうとうがっこう

### 2 研究課題

全日制普通科高等学校における発達障害を含む障害のある生徒のキャリア教育の在り方について ～中学校との連携を生かす～

### 3 研究の概要

進路指導主事、就職支援コーディネーターを中心にして、ハローワークや特別支援学校等の関係機関との連携、近隣企業との協力関係強化を図るとともに、継続的に生徒の支援体制を行う組織を校内に確立させるための研究を行った。また、生徒の自己肯定感を高め、将来を見据えて職業的自立を目指すキャリア教育を一層すすめるため、校内全般の教育活動を見直すとともに、連携型中高一貫教育の特性を生かして中学校と高等学校が協力してキャリア教育を推進していく指導体系を研究した。

具体的には、モデル校における教員研修会の実施、生徒向け講演会や就業体験等の実施、就職支援コーディネーター等によるソーシャルスキルの指導及び個別に対する指導・支援の充実を図り、生徒の進路実現に繋げた。中高一貫教育の担当者会議を中心に、中学校・高校の継続したキャリア教育の推進に向けて検討を進めた。

### 4 研究の成果

- ・就職支援コーディネーターの配置により、障害のある生徒に対する支援が充実し、生徒や保護者にとって、安心して相談できる体制づくりが推進された。これまでの全日制普通科の高等学校においては、特別支援学校における就労支援ネットワークに関する情報を持っていなかったため、これらのネットワークと連携できたことは、大きな前進である。
- ・ハローワークや地元企業をはじめとする外部関係機関からの指導や助言を受ける機会が増えたことにより連携協力体制が前進した。
- ・発達障害を含む障害のある生徒に対する職員の意識改革が進み、生徒の特性やニーズを

踏まえた生徒指導体制の重要性が改めて認識された。生徒一人一人の特性を教員が共通理解する仕組みが確立されたことや個別の教育支援計画を作成するなど、特別支援教育についての組織的な対応が前進した。個別の教育支援計画の作成においては、地域にある野田特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの助言を得た。また、わかる授業や楽しい授業づくりを目指し、生徒の授業参加意識の向上や自己肯定感の醸成に向けた工夫・改善が進んだ。

- ・特別支援学校等のキャリア教育を参考に、卒業後の生徒に対する支援システムを構築することを目指し、「関宿高校キャリア発達支援センター」を立ち上げることにした。
- ・地域の中学校からの進学者について、中学校教員から特別支援教育やキャリア教育の視点からこれまで以上に生徒情報の提供がされるようになった。

## 5 課題と今後の方策

- ・就職支援コーディネーター、特別支援教育コーディネーターと進路指導部職員との連携会議を定例化することにより、入学後の早い段階から個別の教育支援計画作成と職業体験等につなげていく体制を構築する。
- ・近隣中学校との連携強化により、中学校段階での、就職を意識した進路指導についての在り方を協議する。
- ・「関宿高校キャリア発達支援センター」の役割を生徒や保護者に周知するとともに、機能の充実のために関係機関との連携強化を図る。
- ・ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業改善をすすめるとともに、キャリア教育の充実に向けて年間指導計画の点検と改善を継続する。